

演 題	多職種で取り組む褥瘡対策
副 題	委員会活動内容の見直しを行って

フリガナ	しおかわ福寿の里
施 設 名	しおかわ福寿の里
フリガナ	かんごし さかもとみつこ
発表者(職名・氏名)	看護師 坂本美津子
フリガナ	えいよう・じょくそうたいさくいいんかい
共同研究者	栄養・褥瘡対策委員会

【はじめに】

当施設の栄養褥瘡対策委員会は、各専門職間に情報共有が充実していない、ひとりひとりのケアの反映がされていない、委員会活動が十分機能していないという現状であった。

そこで、平成28年度後期より委員会の活動内容を見直した。自分たち専門職としての役割を明確にし、褥瘡・創傷対策マニュアルの見直しを行い、入所時からのフローチャート、褥瘡創傷対策計画書の作成、対象者の把握と評価、リスクの把握と対策、褥瘡発生予防計画の立案を行い、各専門職の意見を反映し、本人の全体像が分かる計画書を作成した。また、体重の変化一覧表の作成、褥瘡発生報告書も看護、介護、栄養、必要時医師、リハビリとも連携して、一人一人をフォローしていけるように見直した。結果、多面的に統合的に把握出来るようになってきたのではないかと実感している。中途ではあるがその経過をここに報告する。

【目的】

- ・新規発生者の予防の徹底をする
- ・発生者に対しては適切な管理を行う
- ・職員間での情報を共有し、日々のケアに活かしていく

【活動内容・経過】

新規入所者・ハイリスク者は、褥瘡創傷対策計画書を使用し、危険因子の把握と発生予防計画を立案する。立案時他職種の見意見を反映させていく

発生者に対しては、創部の写真撮影、処置内容の評価を週1回行う(入浴時)褥瘡創傷計画書を使って対象者の評価(週1回)を行う

褥瘡発生報告者(ハイリスク者含む)の検討評価この報告書を基に合同の塩川病院褥瘡対策委員会にて報告しNST担当医から助言を受ける(月1回)

体重増減者の評価(月1回)を行う

職員への周知は、褥瘡創傷対策計画書を活用し、①リーダーノートに貼付し、②看介護会議で委員会報告を行う

【結果】

利用者の身体観察及び身状況褥瘡創傷の状態の把

握に関心を持って関わられるようになった。週1回の褥瘡創傷部の写真撮影、状態観察を行い、褥瘡創傷対策計画書を更新、褥瘡発生者はDESING-Rを使用、体重の変化、予防対策用具、栄養状態、検査データ、処置内容等の情報を共有しながら評価出来るようになった。ハイリスク者に関しても同じように評価した。また、全利用者の体重の増減、栄養面、身体の状況、リハビリ面、医療面(必要時医師の診察依頼)などから現状の問題点と改善点を検討し、問題解決に向けての早期対応や継続したケアに視点を向けられるようになった。

また、議事録の統一化を行い、議題事項を前もって把握することによって委員会活動がやりやすくなり各専門職間での意見が交換しやすくなってきた。

【考察】

褥瘡創傷対策計画書に沿って、有褥瘡者、ハイリスク者の検討評価をすることにより

- ①個々の栄養状態や身体状態、体重の増減検査データを把握し改善に向けての働きかけが少しずつ形付けされていく事が出来た
- ②処置内容が徹底されず炎症を発生させてしまうケースもあり今後の検討の余地を残した
- ③新規の褥瘡発生者や皮膚トラブル発生者も「0」におさえることが出来なかった。発生させない、悪化させない為の適切なケアのあり方に向け検討の余地が大であった。
- ④委員会での検討内容をスタッフに周知徹底するとともに、日々のケアに還元できるような工夫の必要性も感じている。
- ⑤委員会活動がスムーズに進行出来るようになってきた。

【まとめ】

委員会活動の見直し、活性化を図ることにより、各専門職のケアの向上に対する意識、利用者の生活の改善につなげる事が出来るのではないかと考えられる。スタッフに周知徹底する点では十分ではなく、課題が残っているが今後も多職種間で新規発生者の予防の徹底、発生者に対しての適切な管理、情報の共有を目標に取り組みを進めていきたい。